

令和5年度 学校園評価(学校関係者評価)シート

様式2)

学校名	加古川市立平岡北幼稚園
-----	-------------

1 教育目標 心豊かで、共に学び、育ち合う子の育成 ～一人一人の「生きる力」の基礎を育成する～

2 基本方針

- ・豊かな体験を通して、主体的に活動できる子どもを育てる
- ・基本的生活習慣の徹底を図る
- ・地域の恵まれた文化・教育環境・教育力を生かした体験交流の推進
- ・家庭・地域・小学校・中学校との連携を深め、開かれた幼稚園づくりを推進
- ・道徳・福祉・人権・食育・環境・防災・特別支援教育の充実
- ・教師の研修の充実(教師の指導力・専門性・危機管理能力の向上)を図る

3 指導目標

(1)ねばり強く、最後まであきらめない子 (2)思いやりがあり、心のやさしい子
 (3)自分で考え、行動できる子 (4)よいこと、悪いことのけじめがわかる子
 (5)豊かに感じ、素直に表現する子

評価基準

A:できている B:だいたいできている C:あまりできていない D:できていない E:わからない

※特に、今年度、力を入れた項目に◎がついています。

重点目標	評価項目	達成状況	自己評価(★成果 ※改善の方策)
* 基本的生活習慣を身に付ける。	◎身近な人とあいさつをする気持ちよさを感じる。 ○身の回りのことを自分でしようとする。 ○規則正しい生活を送る。	B	★ユニットの取り組みとして今年度も年間を通して親子でのあいさつ運動を実施した。幼稚園の前の道で地域の方、一般の通行人等、知らない人にもあいさつし、大勢で一斉にということなら安心してできるようになってきた。しかし「自分から進んで」という意味では、声が小さかったり恥ずかしかったり課題がある。また、その日の気分によって、あいさつに気持ちが向きにくいこともある。 ※教師が率先してあいさつする等、幼児の気持ちに寄り添い気長な指導と、家庭と連携することで誰とでも挨拶できるよう意識付ける。
* 健康と安全に気を付け、意欲をもって生活する。	◎苦手なことにも粘り強く挑戦する。(竹馬・バカボコ、縄跳び・こま回し等) ◎安全な生活の仕方を身に付ける。(避難訓練、防犯訓練等、安全対応能力の向上) ○集団生活の決まりや約束を守る。	A	★竹馬・バカボコは苦手意識をもつ幼児もいたが、友達の影響や保護者・教師の励ましで頑張り、全員乗ることができると、諦めずに頑張ることで成功体験ができた。 ★縄跳び・こま回し等も苦手と感じる幼児には個別に関わって励ますことで、こま回し大会ではメダルをもらうこと等、自分なりの目標をもち取り組んだ。また、友達同士の励まし合いや競い合いにつながり、意欲的に頑張る姿が見られるようになった。しかし、挑戦・意欲には個人差がある。 ※個人差はあるが、頑張ったことを認める教師の姿や、できたことを認め合えるクラスづくりと共に、家庭にも協力を仰ぎたい。 ★避難訓練では小学校の協力を仰ぎ、地震・津波は校舎4階まで避難する訓練を、不審者は体育館前まで避難する訓練を実施した。訓練前に対応の仕方を幼児と確認しておくことでスムーズに避難することができた。 ※職員が少ないため、全員を安全に避難させるために、より具体的内容の訓練の検討に務めたい。 ※幼児自身の自分の身は自分で守るという意識と、教師自身が危機管理意識を高めることを目指したい。
* 感じたこと考えたことを素直に表現する。	◎命の大切さを感じ、思いやりの気持ちをもつ。 ○様々な人や、身近な自然との関わりから、豊かな体験をする。(豊かな心を育てる感動体験) ○お互いの話を聞き合い、伝え合う喜びを味わう。	B	★人権教室を開催し、親子で「みんなステキ」のDVDや、幼児にも分かりやすい教材を使用し命について考えたり優しい気持ちをもつきっかけとなった。また、年間を通して人権本の回覧をし、家庭で読み聞かせてもらったことも「命」「多様性」等、自分らしく過ごす大切さについて、親子で考える機会となった。 ※幼児にとって、家庭・幼稚園等、毎日の生活が人権教育であり、身近な大人の考えや振る舞いが、幼児の物の見方・考え方に影響を与えることを心に留め、研修を積み重ね意識向上を目指す。 ★親子野菜苗植え・玉ねぎ掘り、また地域の方との苺の苗植え・芋ほり等をし、食への関心が高まった。また、家庭では、収穫物を調理してもらったり、幼稚園で豚汁のクッキングをし、育てたものを食べることを通して「命をいただく」等、命を感じる機会にもなった。 ※教師や保護者の心の在り様で、幼児に掛ける言葉も違ってくる。人権につながる命の教育を、家庭と連携しながら意識を高めていく。
* 職員の資質向上を図る	◎教師の資質と指導力の向上 ・一人一人の幼児理解に努め、個々に寄り添った関わりや指導を行う。	C	★教師同士が保育後に幼児の様子を伝え合うことで、幼児やクラスの様子が共有され、教育活動に生かすことができた。発達が様々な幼児がいることを理解し、共に育ち合う環境づくりに努めた。一人一人の幼児に沿った指導を心掛けたことが成果につながっている。また、支援児も含めて、指導に迷う部分は専門家の研修を受けることで、よりよい指導の手立てとなり、教師自身も「分かる」ことの喜びを味わえ、すぐに実践につなげることができた。 ※教師の資質向上のための研修時間確保とともに、教師一人一人が、意欲をもって職務に励むことのできる研修会のもち方を検討する。

※評価項目の◎印を評価願います。

自己評価の適切さ(学校関係者評価)	達成状況
◎生活習慣は毎日の積み重ねで身に付くので、家庭とうまく連携しながら、これからも気長に取り組んでほしい。 ○親子でのあいさつ運動は、時間的にも保護者に負担なく実施できていること、子ども同士の関りを見る機会にもなり、よい取組だと思います。来年も続けてください。	B
◎竹馬・バカボコに、全員乗ることができるようになったとのことで、子どもだけでなく、保護者や、先生・友達の影響もあったのではないかと思います。粘り強さが身に付くと、どのようなことに対しても、「あきらめない子」「くじけない子」になると思うので、そのような子になるように指導したいだけだと思います。	A
◎毎日の生活が人権教育であり、子どもがよりよく育つような活動や取組がされていることを嬉しく思います。 ○町内会との芋苗や芋ほりで世代を超えたふれあいができているように感じます。また、収穫物のクッキング等、子ども達はとても喜んだことでしょう。これからも、家庭ではできない経験をさせてあげてください。	B
◎教師の資質と指導力向上については、毎日の忙しい業務の中、頑張られていると思う。 保護者アンケート結果等から、保護者も幼稚園教育への理解を深められており、先生の教育力を評価されているので、業務改善もメディア等で話題になっているが、就業時間内での効率のよい研修を進めてほしい。	B